

地域への働きかけ（見守り、ネットワーク化）、施設機能の強化

地域の住民を対象にしたスペースの無料開放 ～中心荘コミュニティールームの貸し出し～

☞**取り組み内容のポイント**☞ 地域に開かれた法人づくりの一つの手段として、施設内で空いている部屋を地域住民に無料で提供する。この取り組みを通じて、施設を身近に感じていただき、施設の利用者やサポーターになってもらえるよう働きかけていく。

神奈川県

社会福祉法人

中心会

〒243-0431 神奈川県海老名市上今泉4-7-1

TEL：046-231-7152 FAX：046-231-5449

●法人創立年

昭和28（1953）年

●法人実施事業

①経営施設数合計：5施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

養護老人ホーム…1、特別養護老人ホーム…4、訪問介護…1、
訪問入浴介護…1、通所介護…2、短期入所生活介護…3、
居宅介護支援…2、地域包括支援センター…2、
児童養護施設…1

●法人の理念・経営方針

私たちは、私たちが活動する地域社会において、自分や自分の大切な人が抱える心身の障害や生活環境上の問題によって、様々な「不自由」「生きにくさ」を現に経験し、または経験するだろうリスクを有する人々に対して、適切な専門性の担保された養護、介護、及びこれに関連する諸サービスを提供することを通じて、誰もが自分の存在に誇りを持ち、生きる喜びを享受するとともに、自分の家族や隣人の存在を素直に喜びことができる社会づくりに貢献します。

●取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款への記載：記載していない
- ②事業報告・計画への記載：記載している

●取り組みを実施している施設の概要

【施設名】：中心荘第一・第二老人ホーム

【施設種別及び利用定員】：

特別養護老人ホーム（第一老人ホーム定員50名、第二老人ホーム定員50名）

短期入所生活介護（第二老人ホーム定員5名）、

認知症対応型通所介護（第二老人ホーム定員12名）

●活動内容

- ◇活動開始年：平成23（2011）年8月
- ◇活動の対象者：住民
- ◇活動の頻度・時間
年間365日、9:00～21:00の間で、貸し出し可能

●活動実施の背景、実施にいたった理由

平成12（2000）年の介護保険の導入時、特別養護老人ホームの他に新たな居宅事業を始めたが、事務所が手狭になるため、平屋の建物を事務所として新築し、運用してきた。しかし、平成21（2009）年6月には、法人として新たな特別養護老人ホームを近隣に新築し、この事務所で行っていた居宅事業を、新しい特別養護老人ホームに移転した。その後、秋までの数か月は、特別養護老人ホームの事務所として使用していたが、広すぎることから事務所を別に移し、平屋の建物は行事や研修に随時使用してきた。

しかし、職員から「広いスペースが空いているのはもったいない、地域のために使用できないか」という声上がり、地域住民のためにできることとして、無料で開放することとした。しかしそれもつかの間、平成23（2011）年3月には東日本大震災が発生、一時は被災者のために利用してい

ただけるよう、神奈川県に登録をしたが、その余波も少なくなった8月から、正式に「中心荘コミュニティールーム」として地域開放を開始した。

●実施内容

「中心荘コミュニティールーム」（平屋のプレハブ建物）の無料貸し出し。

- *予約は事務所窓口や電話がほとんどであるが、FAXやEメールでも受け付けている。
- *利用日は、土日祝日関係なく毎日開放し、時間は9:00～21:00としている。
- *室内は、90㎡ほどの板の間の他、20㎡ほどの会議室がある。またミニキッチンも完備しているので、簡単な料理も行える。
- *現在は、13団体の方々にご利用いただいている。利用内容は、フラダンス、絵手紙、スポーツ吹き矢、太鼓の練習やガールスカウトのキャンプ訓練、近隣保育園との交流など。ある団体は、コミュニティールームを使って、地域の高齢者

等に、太鼓を通じた仲間作りで引きこもりを防ぐとともに、盆踊りなどで叩けるレベルになると、地域住民に呼び掛けている。

*使用後は、簡単な掃除、戸締りの確認をしてもらっている。

◎活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

*職員は、利用団体と利用者との接点はないかという視点で、捉えるようになってきた。

*太鼓の練習の団体が来られた時などは、利用者が毎回練習風景を見に行かれ、団体の方々も、これを快く受け入れてくださっている。利用者は、普段の生活では味わえない刺激を受け、椅子やテーブルまで用意して、長時間演奏を楽しまれている。

*また、ガールスカウトや近隣の保育園の園児が来られた時などは、学生、児童や園児と利用者が交流し、ひととき地域とのふれあいを体感していただいている。

*利用団体からは「無料だし、広くて日中は照明がいらぬほど明るく、ミニキッチンもあるので、使用の幅が広がる」との声も聞かれる。

*自治会の回覧などを利用して広報をしているが、地域の方からは「地域のコミュニティーセンターが近々リフォームで使用できなくなるが、このように広い部屋を解放してくれるのはありがたい」などの反響もいただけるようになってきた。

◎今後の展開

運用を開始して1年を経過したところだが、まだまだ中心荘コミュニティールームの空きは多い(平均で1か月20日程度の空き状況)。今後も定期的に広報し、利用団体を増やし、地域のために有効活用していきたい。

また、利用団体とは毎回コミュニケーションを図り、その中でニーズが見えたら、施設の事業やボランティア活動を紹介し、施設の利用やサポーターの一員へとつなげていき、地域の福祉に貢献していきたい。

◎主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数〔8〕名
(職種等:生活相談員、栄養士、事務員、介護職員)
 - ・取り組みを実施している施設の事業規模(平成23(2011)年度決算の事業活動収入)〔480,481〕千円
- ※法人全体の事業規模(同上)〔2,041,885〕千円



利用者団体と施設利用者との交流



コミュニティールームの外観



コミュニティールーム内部